

■ 雑誌『初等数学』第66号(2011年4月号)(購入申し込みは<http://www.asahi-net.or.jp/~nj7h-ktr/join.html>)の巻頭言に繁木伸孝氏(福岡県立小倉高校)が、『プリント教材』というタイトルで次のようなことを書いている。

■ 昔はプリント1枚作るのも、大変な手間がかかり苦勞をしたものだが、最近は様々なソフトによってそれが容易にできるようになった。数学では数研出版の「Studyaid D.B.」がよく使われていて、これには数学用ワープロソフト機能以外に、入試問題や問題集の問題などのデータベース機能が付属している。

「最近 Studyaid の問題と解答をそのまま印刷したプリントを目にする機会が増えた気がする」「Studyaid の解答が悪いのではないが、授業で強調した個所や答案作成という観点から考えると不備な場合も多いのではないか」「お手軽さにかまけて教員が教材作成に手を抜き始めると、教員にも生徒にも不幸な結果しか待っていないと危惧してやまない」

■ 同感しきりである。確かに Studyaid は便利で、私は図をかくのにも重宝している。これまでに出版した2冊の本の中の図版もこのソフトによっていて、これがなかったら本の出版はあり得なかったであろう。

しかし、繁木先生が指摘するように、解答までそれに頼るのはいかがなものかと思う。

一般に問題集や参考書の解答は、(難癖をつけられると困るからだと思うが)馬鹿丁寧であることが多い。そういう解答を見て、生徒たちはそんな長々しい解答を書かねばならないのかとウンザリし、意欲を減退させる。

授業では、記号 \therefore や \because なども使ってできるだけ簡潔な解答の書き方を指導しているから、そういった指導の方向が生かされない解答は、できれば配りたくない。

■ さらに言えば、試験問題などでも教員が自分から苦勞して問題を作ることが、めっきり少なくなったのではないかと思えて仕方がない。

私は試験問題については(教科書の問題の数値を変えたようなものだって当然あるが)ほぼ100%を自作し、解答は手書きではない場合もあるが自分で作っている。授業で教科書にない問題を追加する場合、半分程度は問題集のものを使うが、残りは自作して使っている。

生徒の様子を考え、この程度の計算ならどのくらいの生徒がこなせるかなどと考えながら、係数などの設定をして問題作成する丁寧さが必要なはずだと思う。

■ 教員が教材作成に手を抜き、加えて問題作成能力が落ちてくると、繁木先生が危惧している以上の不幸な結果を招来するのではないか。